

市内小中学校における水泳授業及びプールの現状と課題

<現状と課題>

1 水泳授業の現状

- ・ 6月下旬から7月の期間に各学年8回程度実施
- ・ 各校のプール施設管理は学校が行う
(授業実施のためのプール整備、清掃等)
(排水、こけ等の汚れの除去、付属施設の清掃・整備等)
- ・ 雨天時は、気温・水温等の状況によって中止。

2 各小中学校のプール施設の老朽化

- ・ 使用できる学校は、修繕しながら使用している
- ・ 南小、北小、坂野小、松中は故障し、使用できない状態

3 外部施設の利用

①OKスイミングクラブ施設(徳島市山城町)において水泳授業

南小松島小学校・北小松島小学校の全学年が実施

5月下旬から10月上旬までの月曜日(OKスイミングスクール休館日)に実施

各学年4回の実施(着替えを除いて1回45分を確保している)

②市営プールにおいて水泳インストラクターによる水泳授業

坂野小学校が実施

6月下旬から7月の間に実施

各学年4回程度の実施(雨天中止する場合もある)

③成果と課題

- 成果
- ・ 1回の授業で10名を超える水泳スタッフが参加した習熟度別少人数の指導で、児童の泳力向上につながっている
 - ・ 水泳が専門でない教員も多く、教職員の負担軽減につながっている
また、一緒に指導をすることで、教職員の指導力向上にもつながっている
 - ・ 引率の教職員が巡視等に対応することで児童の安全確保の向上につながっている

課題

- ・ バス移動による授業時間の減少
- ・ コロナ禍においてはバス移動による感染リスクもあった
- ・ 今後、学校の追加の要望は、受入れ側にも負担がある。

4 夏休み期間中の開放活動（7月の10日間程度）

- ・教員と保護者が当番制により監視
- ・学校によっては、負担が多いため中止している

複合施設建設のメリット・デメリット

1. メリット

- ・専門スタッフによる習熟度別少人数の指導で児童の泳力向上
- ・水泳が専門でない教員も多く、教職員の負担軽減
- ・一緒に指導をすることで、教職員の指導力向上
- ・引率の教職員が巡視等に対応することで児童の安全確保の向上
- ・天候に左右されず計画的な水泳授業の実施
- ・移動時間の短縮
- ・夏休み期間中の開放活動時の教員・保護者の負担
- ・教員によるプール施設の維持管理の負担軽減

2. デメリット

- ・年間通しての水泳計画実施に対応したカリキュラムの作成が必要
- ・水泳授業の回数の減少
- ・夏休み期間中の開放活動など、学校独自でのプールを使った取り組みの中止